

令和4年度 自己評価・学校関係者評価

I 自己評価

岐阜県立加納高等学校

学校番号

5

<p>1 学校教育目標</p>	<p>自主自律した個性豊かな生徒を育てる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。 3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。 		
<p>2 スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大志を抱き、高い知性を兼ね備え、自らの理想(ゆめ)に向かって挑戦できる生徒 ・個性を認め、他者を尊重して協働することができる心豊かな生徒 ・持続可能な社会の創り手として、主体的に課題解決に取り組み、社会に貢献できる生徒(普通科) ・音楽や美術の専門性を生かし、将来、芸術分野で活躍できる生徒(音楽科・美術科) 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の個性や長所を伸長するための教育課程の編成と個に応じた指導の徹底 ・ICTの活用や授業改善による学びの質の向上と主体的、対話的で深い学びの実現 ・自主性や仲間との協調性を育むため、生徒を主体とした学校行事や部活動の運営 ・探究的な学びによる主体的判断力、計画立案力、コミュニケーション力、課題解決力の育成(普通科) ・個性を尊重した少人数の専門教育による藝術的感性や創造的表現力の育成(音楽科・美術科) 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心が旺盛で、自分の目標を目指して勉学に励むことができる生徒 ・自由な校風の中で、部活動や生徒会活動などに主体的に取り組むことができる生徒 ・音楽を専門的に学び、将来、演奏家や指導者などを目指している生徒(音楽科) ・美術を専門的に学び、将来、作家やデザイナーなどを目指している生徒(美術科)

【教務部】

2 現状の分析	<p>○自分の将来像を考え、その実現のために主体的に学習に取り組み始める時期が遅い生徒が多く見られる。</p> <p>○生徒、保護者を対象とするアンケート（令和3年7月実施）では、教職員の学習指導への姿勢や、授業内容等への信頼度は高いことが分かる。その一方で、能力に応じた指導を行っていると感じている生徒は7割弱となっており、指導方法の工夫が求められている。</p> <p>○「地域共創フラッグシップハイスクール(FRH)事業」が終わり「グローバル探求実践(GLI)事業」が始まり、昨年の成果から探究的な学習を通して課題の発見とその背景について考察を深め、論理的思考力や課題解決能力など社会に求められる力を育成するための方法の一つとして取り組んでいく。</p> <p>▲朝の読書など諸行事が実施できなかった。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア支援部と連携を図りながら、生徒の学習習慣の確立とキャリアデザインを進める。 ●「本時の目標」の定着を図り、生徒が目的意識をもって授業に臨む習慣を身に付けさせる。 ●教科会の充実を図り、「言語活動」「アクティブラーニング」「ICT機器」を取り入れ、深い学びに結びつく授業研究を行う。 ●読書指導法の研究を行う。
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇授業を重視し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>◇授業改善への取り組みを推進する。</p> <p>◇自ら本を手に取り、意欲的に読書活動を行う生徒を育成する。</p>

年度目標				年度末評価					
5 評価・項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 評価	
		※外部アンケート(保護者・生徒)※学習時間調査(学)	指標	前年					結果
◇学習指導	(1) 学習時間調査の分析	学	1年	30%	9%	14%	C	<p>○授業内容については、概ね信頼を得ている。</p> <p>▲コロナ以前と比べて学習時間の減少がみられる。ICT環境を活用した授業改善と家庭学習習慣の確立に向けた、指導の工夫を進めたい。</p>	B
	(2) 生徒による授業評価の分析		2年	40%	10%	18%			
	(3) 公開授業・研究授業参観及び授業研究会		3年	90%	67%	77%			
		生	90%	90%	92%	A			
		生	90%	87%	89%	B			
		保	90%	82%	84%	B			
◇図書指導	(1) 「LHRの時間」を効果的に利用する。	生	90%	*	1年 51% 2年 54% 3年 67%	B	<p>○文化祭参加など委員会活動を活発に実施できた。</p> <p>○貸出数：4.6冊/人</p> <p>▲各学年への働きかけ</p> <p>○芸術鑑賞の実施・劇団四季</p>	B	
	(2) 年間を通した委員会活動を計画する。	生	50%	*					
	(3) 新刊案内や図書館通信の効果的な活用。		図書貸出冊数（4～1月まで）	4000冊					4539冊

12 来年度に向けての改善方策

- ・ICT環境を活用した授業改善と継続的な学習支援体制を整え、目標の早期発見、醸成させられるようLHRなどでライフプランについて考える機会を設けるとともに、将来のために主体的に学習に取り組む姿勢を育てたい。
- ・また、家庭学習と授業とがリンクする指導を行っていく必要がある。そのための授業改善に取り組んでいく。

【総務部】

2 現状の分析	○学校行事について、生徒・保護者ともに協力的で、各行事の運営を効率よくかつ厳粛に進めることができた。 ○会議資料の電子化が徹底されており、職員会議の紙媒体資料を減らすことができ、会議も効率よく進められた。
3 学校の抱える課題	・分掌、教科、学年、普通科、音楽科、美術科と連携し、職員の意志疎通を図る必要がある。 ・会議資料電子化に伴い、会議の効率化を図り、データをより利用しやすい形式になった反面、資料の確認が必要である。
4 今年度の具体的な重点目標	(1)式典・全校集会においてICTの活用を進めるとともに、基本的な倫理観や秩序を重んじる態度を育成する。 (2)学校運営協議会（ゆめ会議かのう）を通して、本校の教育活動の理解を図り、地域の人たちの意見や要望を受け止め、学校経営に生かす。 (3)国際交流の機会を生かして、生徒一人一人の視野を広げ、平和的で民主的な社会を実現する人材となるよう意識を高める。 (4)日本学生支援機構の奨学金制度に加えて、地域や各種団体の奨学金制度の利用推進を図る。 (5)選挙権年齢が18歳以上となり、国家社会の有為な形成者をめざす公教育の一貫として主権者教育を地歴公民科と連携して推進する。 (6)会議資料および職員必携の電子化を進め、資料をより利用しやすいものにする。 (7)学校行事、PTA行事などへの保護者の参加率の向上を図り、PTA常任委員会の活動を推進する。

年 度 目 標

年 度 末 評 価

5 評価・項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 評価
		※外部アンケート(保護者・生徒)※学習時間調査(学)	指標	前年	結果				
総務部	(1) 早期の準備と、礼法指導等を通して秩序ある式を推進する	保	奨学金等の情報の周知度	*	*	*	情報を周知できている	<ul style="list-style-type: none"> 奨学金等の情報は必要な時期に適切に提供できた。 制限が緩和された後、式典、全校集会の形態を再検討する必要がある。 	A
	(2) 学校運営協議会（ゆめ会議かのう）の委員の方に本校の教育方針や生徒の現状を伝え、助言・意見を伺い、それを全職員と共有し改善の一助とする。	教	電子化された資料の定着度	93%	90%	98%	メール配信等により速やかに伝達できている。		
	(4) 各種奨学金制度の周知を徹底し、利用推進を図る。 (6) データのスリム化を呼びかけ、会議の効率を高める。	教	式典・行事のアンケート結果	*	*	*	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の制限の中で、適切に生徒・保護者を分離して入学式を開催できた。 Webex、放送の利用により全校集会をリモートで実施できた。 学校運営協議会で有意義な助言・意見をいただけた。 		

12 来年度に向けての改善方策

・情報をより精選して、適度な頻度で提供していきたい。

【キャリア支援】

2 現状の分析	<p>▲解説講義などへの参加者が少ない。</p> <p>○ハイレベルな模試に挑戦する生徒が増えた。</p> <p>○入試対策期間における個別指導を、全校体制で取り組むことが出来た。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習習慣の確立と生徒の学力向上 キャリア教育の推進 入試改革に向けた取り組み
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇知的好奇心を発掘し、主体的な学習姿勢を育み、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図るとともに、模試等の結果分析を授業改善に結び付ける。</p> <p>◇学校での「学び」と自らの将来との接点を認識させることにより、新たな学習課題を発見させ、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする。</p> <p>◇「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成を図る。</p>

年度目標				年度末(途中)評価					
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート(保護者・生徒・教員)							指標
◇進路指導	(1) 外部講師による講演会 (2) システム手帳の活用(テストを活用した到達目標の設定) ※ポートフォリオ作成(学修の記録)⇒PDCAサイクルの確立 (3) 「総合的な学習の時間」の活用 ※高校での「学び」と自らの将来の接点の認識 (4) 「支援事業」の活用 ※上位層の伸長・探究学習への取り組み (5) 学びみらいPASS・リクエスト講座の活用 ※「思考力・判断力・表現力」(新入試対応力)の育成	生	ハイレベル模試への受験	1年	15%	14%	14%	B	○コロナ禍のため、対面実施できなかった1年生大学系統別説明会、保護者進路研修会の対面実施ができた。 ▲コロナ禍の影響により、体験学習の機会が復活していない(医療系)。 ▲保護者進路研修会を対面実施したが参加が少なかった。 ○ハイレベル模試へ挑戦する生徒の定着。目標値には遠いものの、数が安定してきた、生徒のなかでも認知度が高まった。 ○各種講演会や模擬授業に対する生徒の評価は好評であつ
			(1・2年全統記述、難関大模試)	2年	50%	31%	28%		
				3年	20%	18%	17%		
		保	学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。		90%	84%	78%	C	
			学校は生徒に様々な(適した)進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。		90%	68%	86%		
			◇国公立大現役合格者(R5入試)		170名	137名	167名		
	◇志望上位国公立4大学現役合格者		80名	45名	70名	B			
	◇国公立難関大現役合格者		20名	13名	14名				

12 来年度に向けての改善方策	<p>・日々の学習の振り返りを通じて、学びの質を高め自立した学習姿勢を育成し、学ぶ意味を生徒自身が問い、学ぶ意味とリンクした進路実現(キャリア教育)をはかる。</p>
-----------------	---

【生徒支援部】

2 現状の分析	<p>○基本的な生活習慣の確立は、保護者との連携も図られ、概ね良好である。5分前登校についても定着されつつある。 ▲交通事故件数は、昨年度と同数であった。(20件→20件) 継続的なルールの遵守とマナーアップ指導が必要である。 ○情報モラルについては、やや改善された。一方で、校内でのスマホの時間外使用やスマホ依存が疑われる生徒が増加傾向にある。 ○スクールカウンセラーとの連携が図られ、充実した教育相談活動ができた。また、いじめ事案に対して、迅速な対応ができた。(7件→2件)</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の教育活動全体を通じた交通安全啓発活動を推進する。目標は交通事故年間20件以下。 ●ケータイ・スマホの使用方法等について生徒に考えさせ、よりよい使用法を身に付けさせる。 ●新しい「服装規定」のもと、制服の着こなしと制服以外での登下校、学校生活が、他者を尊重し品位ある雰囲気創りにつながるよう働きかける。 ●「時間を守る」という意識の向上と、遅刻のみならず授業規律の見直しを含め、全職員及び保護者とも連携して呼びかける。 ●生徒の小さな変化・SOSを見逃さない細やかな生徒観察と、連携した教育相談活動のさらなる充実を図る。
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇基本的な生活習慣とモラル・マナーの定着 ・服装における身だしなみや時間(期限)を厳守する習慣を確立し、挨拶、安全マナーなど社会性を身に付けた品位ある生徒の育成を目指す。 ◇教育相談活動の充実 ・多様化する生徒への対応について、生徒理解に努め、相談スキルの向上を図る。</p>

年度目標					年度末(途中)評価				
------	--	--	--	--	-----------	--	--	--	--

5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート(保護者・生徒・教員)			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
		指標	前年	結果				
生徒指導部 ◇生活指導 ◇教育相談 ◇人権教育	(1) 全職員による指導体制の 確立	保 高校生としてふさわしい服装、頭 髪等の指導をおこなっている。	90%	75%	77%	A	○基本的には落ち着いた学校生 活を維持している。一方でコロ ナ対応の影響もあり、安易な欠 席が増えている。 ○遅刻や欠席について連絡がな い生徒に対しては正副担任が 速やかに連絡を取り、生徒の所 在・安否を確認するよう徹底し た。 ○不登校生徒が増加し、いじめ事 案と同様に教育相談を中心に 組織的な対応を必要とされる ケースが増えてきた。教育相談 に人的補填があり該当生徒の 対応に当たっている。 ○新しい服装規定の年度末点検 や、スマホ使用の見直しを進 め、生徒の意識のみならず職員 の指導体制を統一させていき たい。	A
	(2) MSリーダーズやPTA と連携した交通安全運動	生徒の遅刻数	*	1435	1282	B		
	(3) 全職員による遅刻数減少 の取組及び登校時の声か け指導	保 挨拶や遅刻防止など、基本生活習 慣の育成指導を保護者と連携をと って進めている。	85%	64%	64%	B		
	(4) 職員研修会(教育層相談、 いじめ対応、発達障害等に 関するもの)	保 子どもの安全面や衛生面に配慮 し、交通安全、健康管理等の指導を 行っている。	90%	76%	79%	B		
	(5) 人権教育の推進	交通安全啓発活動の実施	*	7回	7回			
		生 子どもの悩みについて担任以外の 相談窓口を設け、その利用につい て十分知らせている。	70%	69%	84%	A		
		生 悩みごとなどに親切に対応してく れる先生が多い	80%	76%	82%	A		
	生 いじめや差別のない学校である。	100%	79%	81%	A			

12 来年度に向けての改善方策
 ・いじめや不登校など生徒一人ひとりの心情に沿ってきめ細かな支援が必要になってきている。職員の共通認識、組織的対応の質を高めたい。

【特活支援部】

2 現状の分析	<p>○コロナ禍で制限がある中、生徒会行事などの活動を止めることなく推し進めた結果、生徒の行事に対する満足度がアップした。今年度も、コロナの影響が残ることが予想されるが、コロナ前よりも実施方法や実施内容が好転したものもある。全てをコロナ前に戻すのではなく、より良い行事のあり方を見直すチャンスととらえたい。</p> <p>○令和2年度から進めてきた校則（服装規定）の見直しが昨年度末決着し、今年度は正しい解釈で運用されるよう、生徒会を中心に啓蒙活動を推し進める。</p> <p>▲部の統廃合が進んでいない。（内規の見直しが必要）</p> <p>▲算数ボランティアなど、人と人が触れ合うボランティア機会が減ってしまった。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> With コロナおよびアフターコロナにおける白梅祭の規模の再考と実施期間中の暑さ対策 普通科・音楽科・美術科間の交流 部の精選と部顧問配置（統廃合が必須）
4 今年度の具体的な重点目標	<p>(1) 新校則の適正運用の啓蒙 (2) 生徒の自主性・主体性の育成 (3) コロナ禍における行事の実施方法のさらなる工夫</p> <p>(4) 業務分担の見直し (5) 部の精選 (6) 部活動後援会費運用の公平性を考えた内規作り</p>

年 度 目 標					年 度 末 (途中) 評 価					
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価		
		※アンケート（保護者・生徒・教員）	指標	前年					結果	
特活支援部 ◇特活支援	<p>(1) 新校則の正しい運用に向けた生徒会活動</p> <p>(2) リーダー（執行部）の育成</p> <p>(3) With コロナ、アフターコロナに向けた行事の工夫</p> <p>(4) 各種業務の見直し</p> <p>(5) 部の統廃合を推し進める</p> <p>(6) 部活動後援会費の運用方法の他校比較</p>	生	本校の学校行事は、充実している	90%	84%	93%	コロナバージョンでの行事運営に生徒も慣れ、行事への満足度が劇的にアップした。この数字はコロナ前よりもはるかに高い評価である。	A	<p>・コロナ禍において全ての行事を完遂することができた。</p> <p>・今年度の白梅祭は、定員制ではあったが、有観客でのステージ発表が復活し、学校全体に活気が戻った。中でも、文化祭推進委員の運営面での貢献度が非常に高かった。</p>	A
本校は、部活動が活発である	85%	79%	82%	前・後期通じて活発に活動できた。	A	文化祭推進委員の運営面での貢献度が非常に高かった。				
本校は、生徒会活動が活発である	70%	71%	72%							
週一回の執行部会における意見交換	*	*	*	互いに確認しながらスムーズに業務を進めた。	A					
定期的な特活指導部会の開催（部内での情報共有）	*	*	*							
事務担当者との連携	*	*	*							

12 来年度に向けての改善方策

- ・生徒支援部と連携してスマホの使用について考えさせる機会を設ける必要がある。

【保健厚生部】

2 現状の分析	<p>▲健康診断の結果をもとに自らの生活・健康管理を行うことができた。</p> <p>○「警報訓練」をきっかけに学校生活における防災(減災)について考える機会を増やすことができた。</p> <p>▲生徒の防災意識は向上してきたので、家庭・地域の連携のため活動を増やす。</p> <p>○環境整備を目的とした大掃除を柱とした環境整備を、定期的の実施出来るよう年間計画に位置づけた。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の事後指導への意識をさらに高める。 生徒総務委員を中心に防災意識を高める活動を実施し、防災・備蓄品の整備をさらに進める。 校内各箇所の清掃ポイントを明確にし、不用品の処分など周辺を整理して安全な環境を保つ。 新型コロナウイルス感染症予防を心がける
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇健康や安全を客観的に評価し改善する。 ◇事故や災害などに対する、防災意識を高める。 ◇常に校内美化の意識を持ち、清掃等の徹底と生活環境の整備をする。 ◇新型コロナウイルス感染症予防の対策を立て、実践を行う。

年度目標			年度末評価						
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート (保護者・生徒・教員)	指標	前年					結果
保健厚生部	(1) 自らの健康・安全への意識を高める。	生	生徒の安全面や衛生面に考慮し、交通事故や健康管理などの指導をしている。	90%	91%	95%	定期健康診断を基にした健康指導(受診勧告等)	A	<ul style="list-style-type: none"> ○健康診断を受けた生徒が事後受診など健康管理への意識を高めるような指導を工夫する。 ○コロナ感染対策により、感染症の流行を最小限に抑えることができた。 ○在校時の非常変災時への対応については意識が高くなってきた。引き続き、非常変災時への対応ができるようにする。 ▲日頃から、全校生徒が校内をきれいに保つ意識を持てるようにする。
	(2) 全職員で安全点検し、危険箇所等の早期発見と改善への対応。	保	生徒に地震や台風の場合の対応マニュアルをはっきり示している	100%	89%	85%	非常変災時の対応について学校と家庭の連携	B	
	(3) 校内での地震対応を生徒に周知し、訓練を繰り返し実施する		訓練による校内の危険や避難等への対応を周知	*	*	*	今年度は、避難を伴う訓練も実施され、総務委員を通じての意識づけも行えた。今後、家庭においても災害に対するより一層の意識向上を図る。	B	
	(4) 変災時に対する備蓄の検討。		災害に対する意識向上と、生徒用備蓄および緊急対応備品を常に確認	*	*	*	予防対策は確実に成果を上げることができた	A	
	(5) 新型コロナウイルス感染症に対する計画と実践を行う。		新型コロナウイルス環境への予防対策を実践する。	*	*	*			
	(6) 日頃から、環境美化に対する意識向上の実践を図る。	生	本校は、清掃が行き届いており校内がきれいである。	65%	64%	68%	大掃除で清掃のポイントの明示を実施できた。	B	

12 来年度に向けての改善方策

- ・感染症対策は、県の方針に従って有効に対策を検討していく感染対策に重点を置く。
- ・防災意識を、学校だけでなく、家庭でも考えられる取り組みを行う。
- ・環境美化に対する意識を、美化委員会を通じて、日常的に行う。

II 学校関係者評価 (令和5年2月)

- ・基本的生活習慣の確立は、学校の指導だけではなく親と連携して取り組むことが重要である。
- ・生徒が勉強することに手厚く支援されているようだ。
- ・学校ホームページを利用した学校活動周知への取組について、音楽科美術科のチラシは、受検する中学生が情報を得られて、よいと思う。情報発信を今後も続けてほしい。
- ・グローバル探究実践事業について、地歴公民、英語など教科横断的に取り組んでいることは素晴らしい。まず足元である岐阜県について調べており、生徒が苦労しただけの成果が出ているようである。
- ・昼食弁当提供状況について、現在の需要は多くはないようであるが、システムとして提供できることはよい。